

観賞温室第2室 企画展示

- 4月8日(水)～5月31日(日)
「[いがたの花 シャクナゲ・ツツジ展]」
- 6月3日(水)～7月20日(月・祝)
「絶滅危惧植物展」

観賞温室第3室 住宅内展示

- 3月31日(火)～4月19日(日)
「栃尾てまりの四季」
出展: 栃尾てまりの会
- 4月21日(火)～5月6日(水)
版画「ふるさとの四季」
出展: 阿賀町版画すろー会
- 5月8日(金)～5月24日(日)
「ボタニカルアート展 細密画」
出展: 下越ボタニカルアートの会
- 5月26日(火)～6月7日(日)
「花や風景写真」展
出展: 秋葉写真クラブ
- 6月9日(火)～6月28日(日)
押花絵「押花の仲間達」
出展: 森のアトリエ

観賞温室第3室 特別展示

- 3月31日(火)～4月19日(日)
「はなみどり写真コンテスト入賞作品展」
出展: (公財)新潟県都市緑花センター
- 4月3日(金)～4月5日(日)
「春の大つばき展」
新潟県つばき協会・新潟県立植物園共催
注)会場: 花と緑の情報センター

春の植物園まつり

5月4日(月・祝)～5月5日(火・祝)
9:30～16:00

同日開催●観賞温室入館無料デー!

- ◆バックヤードツアー
- ◆植物素材を使った体験教室
- ◆園芸相談 ◆古本市
- ◆物販(植物・食品) など

にいつ花ふるフェスタ 6月7日(日) 10:00～16:00

当日は観賞温室100円デー!

- 主催: にいつ花ふるフェスタ実行委員会
- ◆ミニガーデンコンテスト(※)
 - ◆音楽ステージイベント
 - ◆ミニSL試乗、飲食物販
 - ◆盆栽家山田香織さんの園芸教室 など

第7回ミニガーデンコンテスト 出展作品募集!

- ミニガーデン部門(1m四方)
賞金/最優秀賞5万円・優秀賞1万円
 - 寄せ植え部門(8～15号鉢)
賞金/最優秀賞2万円・優秀賞5千円
- 詳しくは新潟観光協会HPをご覧ください。

上: 第6回ミニガーデン部門最優秀賞
下: 第6回寄せ植え部門最優秀賞

●観賞温室利用案内

開館 / 9:30～16:30(入館締切16:00)
入館料 / 大人600円、シルバー(65歳以上)500円、高校生・学生300円(要学生証提示)
小中学生100円 ※土日祝日は小中学生の入館料無料

●観賞温室開館カレンダー(● 休館日)

4							5							6						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
・	・	・	1	2	3	4	・	・	・	・	・	1	2	・	1	2	3	4	5	6
5	6	7	8	9	10	11	3	4	5	6	7	8	9	7	8	9	10	11	12	13
12	13	14	15	16	17	18	10	11	12	13	14	15	16	14	15	16	17	18	19	20
19	20	21	22	23	24	25	17	18	19	20	21	22	23	21	22	23	24	25	26	27
26	27	28	29	30	・	・	24	25	26	27	28	29	30	28	29	30	・	・	・	・

●交通アクセス ※駐車場無料(350台収容)

高速道路 / 磐越自動車道新津ICから国道403号三条・加茂方面へ約15分
一般道路 / (新潟方面から) 国道49号茅野山ICから国道403号経由約20分
JR / 信越線古津駅から徒歩約25分
バス / 区バス: 新津駅東口から「うららこすど」行き「美術館・植物園前」下車徒歩約1分
新潟交通: 新津駅東口から「矢代田経由白根・湯東営業所」行き「新津美術館入口」下車徒歩約10分

花と緑の教室*4～6月

※会場(または集合場所)「花と緑の情報センター2階 研修室」
※要申込(開催日の1カ月前から電話受付)

- 4月5日(日) 10:00～12:00
「つばきの管理」
定員: 15名 / 参加費: 300円 / 講師: 石井たき(新潟県花つばき協会)
- 4月8日(水) 13:30～15:00
「植物園花散歩①」
定員: 15名 / 参加費: 300円 / 講師: 倉重祐二(当園副園長)
- 5月13日(水) 13:30～15:00
「植物園花散歩②」
定員: 15名 / 参加費: 300円 / 講師: 田中良明(当園職員、樹木医)
- 5月24日(日) 13:30～15:30
「お散歩カメラ ～デジカメ持って植物園を楽しもう～」
定員: 10名 / 参加費: 1,000円(温室入館料・スイーツ代込)
講師: パソコンサブリ 小林 由美(パソコンインストラクター)
- 5月30日(土) 10:00～11:30
「[いがた花めぐり みつけイングリッシュガーデン]」
定員: 15名 / 参加費: 500円(管理協力金・お茶代込)
現地集合・解散 / 講師: 倉重祐二(当園副園長)
- 6月10日(水) 13:30～15:00
「植物園花散歩③」
定員: 15名 / 参加費: 300円 / 講師: 林 寛子(当園職員)
- 6月21日(日) 10:00～11:30
「マツの剪定」
定員: 15名 / 参加費: 300円 / 講師: 田中良明(当園職員、樹木医)

花の国際セミナー

「欧州における花木園芸の現状と可能性」

4月23日(木) 13:30～15:30

会場: 植物園花と緑の情報センター2階研修室 / 定員: 20名
主催: 食と花の世界フォーラムにいがた・新潟県立植物園
参加費: 無料(通訳つき) ※要申込(開催日の1カ月前から電話受付)



新潟県立植物園

植物園だより



富樫信平画 荒川町産 S56.4.12

ショウジョウバカマ

Heloniopsis orientalis
(ユリ科)

早春、雪解けとともに咲く、春告げ花の一つ。山の林床の少し湿り気のある日陰を好んで生える常緑性多年草でしばしば群生する。

和名の狸々袴は花色を狸々の顔に見立て、葉の根生する姿を袴に連想してつけられたという。

花は低地では3月～4月、高山では7月～8月に咲く。花茎が高さ10～20cmに伸びて花を咲かせ果実のできるまで伸び続け50～60cmに達する。花は花茎の頂に3～15個の小花を総状花序につけ横向きに咲く。花の盛りは紅紫色で美しいが終わりになると汚薄緑色を帯びてみにくくなる。

北海道、本州、四国、九州に分布するが、四国、九州では稀れである。 解説: 富樫信平(抜粋)

新潟県立植物園

〒956-0845 新潟市秋葉区金津186番地
TEL.0250-24-6465 FAX.0250-24-6410
Eメール botanical@greenery-niigata.or.jp
ホームページ http://botanical.greenery-niigata.or.jp/
指定管理者 国際総合学園・都市緑花センターグループ





絶滅危惧植物展

観賞温室第2室 企画展示

平成27年6/3(水)ー7/20(月)

植物は、世界中のあらゆる場所に生育場所を求め、環境に適応して生活しており、知られているだけでも40万種類以上があるといわれています。

食用や薬用となるだけでなく、ほかにも多くの機能を持ち、古くから人間の生活によりそってきた一方、現在の人間の生活の影響を大きく受けて絶滅の危機に瀕している植物が数多くあります。環境省の「レッドリスト」(2012)では、日本に自生する7,000種類のうち1,779種類が、また新潟県(2014)でも、385種類もが絶滅危惧種として指定されています。

展示では、その原因や、なぜなくなっはいけないのか、私たちが植物のためにできることを探っていきます。

また、植物園の役割のひとつに多様性保全があり、当園は日本植物園協会の「植物多様性保全拠点園」として保全活動を続けています。当園を含む全国の植物園で行われている活動の紹介や、当園が収集した絶滅危惧植物を公開します。多くの皆様にご覧いただき、現状を知っていただきたいと思います。



ハハジマトベラ
Pittosporum parvifolium



過去の展示



ゴミとともに生きるバシクルモン
Apocynum venetum var. *basikurumon*



ヒカゲツツジの仲間 香りのよいバリエ
Rhododendron parryae



香るツツジ リブラーレ
Rhododendron rivulare

観賞温室第2室 企画展示

平成27年4/8(水)ー5/31(日)

新潟県が生産量トップを誇る西洋シャクナゲ、ツツジの園芸品種を含む、当園のツツジ属のコレクションを公開。華やかに春を彩ります。

「花木の王」シャクナゲ、多様な品種群をもつツツジを中心に、春の花々がつくりだす花園で日常とは違う空間を味わってみてはいかがでしょうか。お気に入りの花を見つけるのも楽しみのひとつです。

また、18世紀以降日本を含む世界各地の植物を欧米にもたらしたプラントハンターの活躍にふれます。なかでも20世紀初頭、日本を訪れたプラントハンター、屋久杉の「ウィルソン株」で知られるE・H・ウィルソンがアメリカに紹介し、世界各地に普及したクルメツツジを取り上げ、多彩な品種を展示します。

当園のみで保有する貴重な野生種も展示予定です。ぜひ、この機会にご覧ください。

にいがたの花 シャクナゲ・ツツジ展



新潟で作られた西洋シャクナゲ「舞娘」



ウィルソンが紹介したクルメツツジ「暮の雪」

園内
ウォッチング

園内
ウォッチング

温室●子ども達に人気のキャラクター!?

オクナ・セルラタ(*Ochna serrulata*)、別名ミッキーマウスノキを紹介したいと思います。

南アフリカ原産のオクナ科の常緑低木で、高さ2mくらいになり、葉は狭長楕円形でふちに細かいギザギザ(鋸歯)があります。春になるとウメの花を思わせる黄色い花を咲かせますが、花を見ただけではミッキーマウスの名前の由来は想像もつきません。

花が散った後、雌しべと星形の黄緑色のがくを残し、雌しべの基部がふくらんで小さな黄緑色の実をつけます。同時に花の中央部分(花床)が盛り上がり、がく片とともに赤く色づいてきます。実が大きくなるにつれ、がく片はそり返りピンク色から赤色に、実は黒くなります。ここまできると名前の由来がわかるのでは。ミッキーマウスを連想させる赤と黒、そしてトレードマークの耳に見えてきませんか?

ぜひミッキーマウスの姿に見えるまでの形と綺麗な色の変化をじっくり観察していただきたいと思います。(鈴木尚子)



1. 花を見ただけではミッキーマウスの名前は想像がつかない



3. 果実の下部分(花床)が盛り上がった



2. 花が散った後に果実がふくらみはじめる



4. がくと花床が赤くなり、果実も黒熟すると、ミッキーマウス



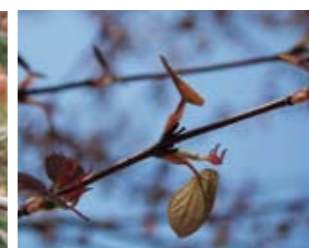
イロハモミジの花序(5月上旬)



ツツハシバミ(4月中旬)



ネグンドカエデ「フラミンゴ」の雄花(4月中旬)



カツラの雌花(4月中旬)

園地●目立たない花

虫に受粉を助けてもらう植物は、独特の花びらの色や形、甘い香り、蜜を持つことで虫を誘います。そのため、虫が動き出す春は、あちこちで花が咲き出す、たいへん華やかな季節です。

一方で、風により花粉が運ばれる植物の花はあまり目立ちません。しかし、葉の展開より早いか同時に咲くために容易に見つけることができるものが多くあります。

イロハモミジは、両性花と雄花がいくつかまとまってつき、6月にはプロペラのような若い種子を見ることができます。同じカエデ属のネグンドカエデは雌雄異株で、当園の「フラミンゴ」は雄株。たくさんの雄しべがぶら下がった花を木いっぱいにつけます。

ヘーゼルナッツと近縁のツツハシバミは、垂れ下がる雄花と赤い小さな雌花を同じ枝に見ることができます。

カツラは雌雄異株で花には花びらがなく、雄しべ、雌しべが苞から現れます(写真は雌花)。園内では雌雄が離れて植えてありますが、秋に実を結んでいるのを見ると、ちゃんと花粉が運ばれていることがわかります。

華やかなだけが花ではない、今年の春の散策では、風の働きによって生き続けてきた、目立たない花にも注目してみてください。(林 寛子)

NEWS 1

第14回にいつ花ふるフェスタ ミニガーデンコンテスト作品募集

毎年春の一大イベント、にいつ花ふるフェスタ(主催:にいつ花ふるフェスタ実行委員会)が6月7日(日)に当園で開催されます。

園内は、音楽ライブや地元団体の方々による歌やダンス、演奏のステージイベント、ミニSL試乗、飲食の出店などで賑わいます。また、今回はNHK教育テレビの趣味の園芸の元キャスターで盆栽家の山田香織さんの園芸教室を予定していますので、ぜひご来園ください。

当日は温室入館料100円デーで、小中学生以下は無料です。温室では普段見ることのできない珍しい植物を展示している「絶滅危惧植物展」を開催しています。ご来園のおりには是非お立ち寄りください。

エントランス広場では、家庭での花と緑の普及を目的とした「ミニガーデンコンテスト」の作品展を行います。ミニガーデン部門と寄せ植え部門の2部門で、当日の来場者の投票により最優秀賞、優秀賞、入選を決定します。

ミニガーデン部門の大きさはタテ1m×ヨコ1m程度、寄せ植え部門の大きさは8号鉢(24cm)以上15号鉢(45cm)以下です。4月15日から募集要項とコンテストの申込み受付を開始いたしますので、皆様のご応募をお待ちしております。

(村田亜希子)



にいつ花ふるフェスタやミニガーデンコンテストについてのお問い合わせ等は、「新津観光協会(電話 0250-24-3777)」まで。
ホームページ <http://www.niitsu.or.jp>

NEWS 3

ツバキの調査

ユキツバキ(*Camellia rusticana*)は、積雪地に適應してその形態や生態を進化させた植物だと考えられています。そのため、雪深い新潟の自然を象徴する樹木として県の木に指定されていますが、近縁とされるヤブツバキ(*C. japonica*)と形態や生態がどの程度異なるかを定量的に評価した研究は少なく、両種が亜種(種よりも分化していない)関係にあると考える研究者もいます。

そこで、当園では昨年の春より新潟大学や元新潟大学教授の石澤進先生らと共同で、県内に自生するユキツバキとヤブツバキ、および両種の雑種と考えられているユキバツツバキ(*C.×intermedia*)の形態や生態の研究を開始しました。

昨年の調査では、ユキツバキ6集団95花とヤブツバキ5集団123花を採取し、形態計測を行ったところ、ユキツバキとヤブツバキで雄蕊の長さは平均17.95mmと34.83mm、雌蕊の長さは15.43mm、17.95mm、花糸(雄蕊の糸状の部分)合着率が0.34と0.63となり、これら3つの形質で明確に両種が区別できることが解りました。また、花被片の色はユキツバキが薄く、花糸の色はヤブツバキで白っぽく、ユキツバキでは黄色が強いことも解りました。

今後は花に来る昆虫や開花期の違いを調査し、両種の生態的な特徴を調べる他、遺伝的な分析も進めていく予定です。また、ツバキ属全体の系統関係については森林総合研究所を中心に調査が進められているため、ユキツバキとヤブツバキの関係も明らかになっていくと思います。

(久原 泰雅)



ユキツバキの花(断面)

ヤブツバキの花(断面)



カンヒザクラ

NEWS 2

花みごろ

3月下旬になると「さくらの山」に濃桃色のカンヒザクラが咲き始めます。カンヒザクラは早咲きで有名な伊豆のカワヅザクラの交配親の野生種です。次に開花するのがエドヒガン。少し日をおいてソメイヨシノが咲きだします。

4月上旬からは「ツツジ園」のミツバツツジやヤマツツジの仲間が次々に開花していきます。「ツツジ園」には国内はもとより海外のツツジなど非常に貴重なツツジの仲間が植栽されており、そのコレクションは日本一を誇ります。

また「ボタン園」には1,600株のボタンが植栽されています。開花時期は年によって変動が大きく5月上旬から中旬です。品種や天候によって異なりますが、一輪の花の寿命は3日~4日。「ボタン園」全体でも見ごろとなると長く一週間。短い年では3日くらいの年もありますので、開花状況はお問い合わせください。日出から咲はじめ午前8時くらいまでが最も美しい花を見ることができます。(田中良明)



昨年8月のベルギーの研究者による生産地の視察

花の国際セミナー
「欧州における花木園芸の現状と可能性」
4月23日(木) 13:30~15:30
植物園花と緑の情報センター
2階研修室
定員:20名

NEWS 4

4月23日に花の国際セミナーを開催

今年4月に、ベルギー国立遺伝育種研究所を中心としたEU諸国とアジア諸国(中国・日本)による「東洋原産花木の機能性遺伝子の解析/ForESTFlowers」プロジェクトで、日本の花木園芸の状況を視察するために10名の研究者が来県します。

4月23日には、食と花の世界フォーラムにいがたと県立植物園の共催で、生産者や研究者、また興味のある一般向けの花の国際セミナー「欧州における花木園芸の現状と可能性」を開催し、EU諸国を始めとする海外の花木の生産状況を学び、新潟県の花木生産の可能性を探ります。

講演者は調整中ですが、イタリアの庭園における日本産花木の利用状況と今後の可能性、ヨーロッパにおける花木の品種改良、アザレア品種の動向などの演題を予定しています。逐次通訳もついて、最新のヨーロッパの花について知るまたとない機会ですので、ぜひご参加ください。

詳細については、後日ホームページ等でお知らせいたします。(倉重祐二)

NEWS 5

ボランティア募集のご案内

植物園では、管理を支えてくださるボランティアスタッフを募集しています!

作業には、花苗の植え付けや花木の剪定、除草などの管理作業(毎週火・木)や展示解説(開館日)などがあり、都合のつく日にご参加いただけます。作業はこちらから指導いたしますので、経験のない方でも健康で植物が好きであれば、どなたでも参加できます。

活動への参加には、登録が必要です。詳細について説明後に登録いただいておりますので、参加希望の方は事前に植物園にご連絡ください。



新潟の植物

ハコベ Stellaria media



どこにも見られるナデシコ科ハコベ属の越年草。「せり、なずな、ごぎょう、はこべ(ら)、ほとけのざ、すずな、すずしろ」春の七草のひとつであるから名前くらい聞いたことがあるだろう。

七草粥には欠かせないことから在来の植物と思われるだろうが、じつは古い時代に渡来した帰化植物で世界中に分布する。葉も茎も柔らかく小鳥などの餌にしたことからヒヨコグサ、ススメグサの俗称がある。

一見、華奢で弱々しい草だが、真冬に蕾を持つ個体も見られ、春の訪れとともに開花する。春草の印象が強いため、秋口まで花が咲き続けることを知らない方が多いと思う。真っ白な花は清楚で美しいのだが、直径が6ミリと小さく目立たない。花卉が2深裂しているため、10枚に見えるが実は5枚なのだ。良く似た植物にウシハコベがある。ハコベより大型でハコベの花柱が3個に対しウシハコベには5個。名前の文字数と花柱の数を合わせて覚えると間違いない。(田中良明)

(田中良明)



ツツジの仲間「初霜」



サツキ「日光」

ツツジとサツキはどう違う

(2015年2月9日放送)

新潟県には、全国で一番が数多くありますが、意外に知られていないのが、花の生産です。その中でも、県内で最大の生産量を誇り、全国シェアの90パーセントを占めるのがアザレアです。

アザレアと言っても、知らない方にはどんな植物だか想像が付きにくいかもしれません。鉢植えにされて冬に販売されている豪華なツツジといえ、イメージできるでしょうか。江戸時代末期から明治にかけて、多数のツツジがヨーロッパに渡り、主にベルギーで改良されたのがアザレアです。新潟には明治時代末期に導入され、昭和初期から本格的に生産されるようになりました。

ちょうど今、県立植物園の温室で「いがたの花アザレア展」を開催しています。百開は一見にしかず。日本一のコレクション250品種、1000鉢が会場を飾っており、まさに花園です。皆様、新潟を代表する花であるアザレアの美しさを是非ご覧いただければと思います。

さて、私は学生の時から今まで25年以上、アザレアの仲間であるツツジやシャクナゲの研究をしています。時期は少し早いのですが、何百回と聞かれた「ツツジとサツキはどう違う」という質問についてお話ししたいと思います。

まず、植物学的な話ですと、ユリヤランという言葉は、特定の植物ではなく、ラン科、ユリ属とグループを指します。これと同じように、ツツジもツツジ属の中で葉が薄くて、枝が細い落葉または常緑性

のグループを指す言葉です。「サツキ」はその中の、サツキの野生種またはその園芸品種を指します。これが教科書的な答えですが、しかし、なぜ同じツツジの仲間に2つの名前が用いられてきたのでしょうか?その歴史をたどると江戸時代に行き着きます。

江戸時代の中期17世紀は、後に「元禄のツツジ」と呼ばれるツツジの大流行期で、数百のさまざまな品種がつけられました。

1692年には、世界初のツツジの品種解説書「錦繡枕」が出版されます。著者は、江戸染井、現在の豊島区の植木屋、伊藤伊兵衛です。この本には335種類ものツツジがあげられていますが、あまりにも種類が多くなったため、分かりやすいように、大まかにツツジを2つに分けることを考案しました。

伊藤伊兵衛は、解説の中で、「つつじ」は春、旧暦1~3月に咲き、「さつき」は初夏、旧暦4月咲くと書いています。今の暦で言えば、4~5月中旬に開花するものを「つつじ」、5月下旬から6月に開花するものを「さつき」と区別したのです。この分類方法が、300年以上経った現在まで続いているのです。

(倉重祐二)



早咲きの大輪のサツキ「好月」は、サツキとアザレアの交配種

友の会通信



親子教室 夏の植物観察会(志賀高原)



コマクサ(本白根山にて)

●平成27年度総会開催

友の会は平成27年3月で発足から満11年を迎えます。今後もさらなる発展をめざしていきたいと考えております。

平成27年度の事業計画について話し合う総会を下記日程で開催いたします。多くの会員のみなさまのご参加をお待ちしております。

日時:平成27年4月19日(日)午後1時30分から(予定)
会場:新潟県立植物園 花と緑の情報センター 研修室

※参加いただける方は、友の会事務局(TEL.0250-24-6465)までお申し込みください。

●今年度の活動(予定)

- 4月19日(日)／平成26年度総会
- 5月上旬、9月中旬／植物園まつり
- 5月／春の植物観察会(行先未定)
- 7月下旬／夏の植物観察会(行先未定)
- 10月／秋の植物観察会(行先未定)
- 12月／植物園クリスマス展装飾 クリスマス交流会
- 2月／友の会展示(観賞温室第3室にて)

このほか、植物園との共催教室、月1回の打ち合わせ、植物園内や周辺の植物観察会を行う予定です。詳細は会員へのおたよりでお知らせしますので、各行事ともふるってご参加ください。



クリスマス展装飾準備

新潟県立植物園 友の会 平成27年度 会員募集

新潟県立植物園友の会は、植物に興味があり、植物園の事業・活動に賛同する方の会です。平成27年度の会員を募集します。詳細は友の会事務局(TEL.0250-24-6465)までお問い合わせください。

年会費

- 個人会員 2,000円
- ファミリー会員 3,000円
- 賛助会員(一口) 10,000円
- 団体会員 5,000円

※4月より翌年3月まで。年度途中入会での割引はございません。

会員特典 植物園だよりなど印刷物の送付、観賞温室入館無料など

新潟県立植物園友の会ブログを開設しています。会の最新情報、会員のつぶやき、発見などをどんどん更新していきます。ぜひ、ご覧下さい。情報はE-mail:bgn.tomonokai@gmail.comまで。

ブログURL http://blogs.yahoo.co.jp/bgn_tomonokai

賛助会員〈わたし達は「新潟県立植物園 友の会」の活動を応援しています〉 ●有限会社齋藤不動産 ●株式会社アート